

## コラム

かつて甲子園に台湾代表が出場していたことをご存じでしょうか。無名の台湾チームがやがて甲子園で準優勝を勝ち取る物語〈KANO〉の試写会に行ってきました。

日本統治時代の台湾では、日本人のみで編成されたチームが殆どでしたが、松山商業で鬼監督と呼ばれた近藤兵太郎は、台湾南部の嘉義農林学校野球部〈KANO〉の監督に乞われ、独自のスタイルで指導を始めます。それは、打撃力のある台湾人（漢民族）、俊足の原住民、守備に長ける日本人と3民族の強みを活かしたチーム編成をし、選手を分け隔て無く特訓することでした。これまで1勝もしたことがなかった〈KANO〉はみるみる実力をつけ、日本人のみの常勝チームに連勝し、1931年、悲願の甲子園出場への切符を手に入れます。無名の民族混合チーム〈KANO〉は、次々と並みいる強豪を打ち破り、ついに準優勝を勝ち取ります。

どんな状況でも諦めずに突き進む精神、そして違う民族が区別無く、同じ人として協力することの大切さを、感動を持って気づかされた3時間でした。この24日から公開されておりますので、感動を味わいに映画館に足を運ばれることをお勧めします！

(M.N)